

非浸潤性乳管癌における再発に関連する臨床病理学的因子の後方視的検討

1. 研究の対象

2011 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日までに非浸潤性乳管癌の診断で、手術を受けられた方。

2. 研究の概要

研究期間： 総長の研究実施許可日～2027 年 3 月 31 日

研究目的： 非浸潤性乳管癌は、一般に乳管の中にとどまっている早期の乳がんであり、理論上は他の臓器へ転移することはないと考えられています。そのため、多くの方は手術によって良好な経過をたどります。一方で、まれではありますが、手術後に再発を経験される方がいらっしゃることも分かってきています。このような再発がどのような背景で起こるのかについては、まだ十分に明らかになっていません。本研究では、当院で手術を受け、非浸潤性乳管癌と診断された患者さんの診療情報を振り返って解析し、再発と関連する可能性のある特徴を調べることを目的としています。この研究によって、非浸潤性乳管癌の診断や治療方針の検討がより適切に行えるようになり、患者さん一人ひとりに合った治療や、安心して受けていただけるフォローアップ体制の構築につながることを期待されます。

研究方法： 診療録をもとに、年齢、病理検査の結果(がんの性質や大きさ、組織の特徴など)、手術や薬物療法、放射線療法といった治療内容についての情報を振り返って調べます。また、手術後にがんの再発があったかどうかについても検討します。これらの情報を統計的に解析することで、再発と関連する可能性のある要因を明らかにし、治療後の経過や予後との関係を調べます。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報： 病歴、術前ないし術後の病理検査結果、薬物治療や放射線療法による治療歴、再発の有無、カルテ番号 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

大阪国際がんセンター 乳腺・内分泌外科 研究責任者 菅野 友利加

住所：〒541-8567 大阪市中央区大手前3-1-69

電話：06-6945-1181

-----以上